

## 鈴木慈光病院はさらなる単剤少量処方に向けて努力いたします。

当院におきましては、従来より薬物の多剤大量処方を避けるように努力して参りました。その結果、当院の入院患者様の抗精神病薬平均投与量は、令和6年12月時点で480mg（クロルプロマジン換算）となり、日本精神薬学会が実施した2023年度処方調査集計結果の平均投与量である698mgを下回っています。

しかし、昨今の精神科病院での報酬が目的と思われる大量処方についてのテレビ報道等により、一般の方々からの精神科病院における医療に対する不信感は相当なものであると思われまます。このような社会状況に鑑み、最適で安心な薬物療法を実現するため、以下の努力をしてまいります。

1. 抗精神病薬、抗うつ薬など、各種精神科薬剤グループごとに単剤治療を基本とし、追加併用も薬1剤のみで薬剤グループごとに2剤までとしてまいります。
2. 身体疾患に対する内科系薬剤なども疾患ごとに単剤治療を基本とし、多剤処方や複雑処方にならないように注意し、高齢の患者様も副作用に配慮した安全な薬物療法を実施してまいります。
3. 学識と豊富な臨床経験を持つ医師を中心に多職種にて最適な薬物治療がなされるよう努力してまいります。

医療法人社団幸悠会 鈴木慈光病院

名誉院長：樋口 久

- ・精神保健指定医
- ・聖マリアンナ医科大学 客員教授
- ・元聖マリアンナ医科大学 准教授
- ・元認知症治療研究センター センター長
- ・元日本臨床精神神経薬理学会評議員及び理事  
精神科薬物治療についての多数の研究業績を有する、  
精神科薬物治療のエキスパート



病院長：鎌田 光宏

- ・精神保健指定医
- ・元山形大学保健管理センター准教授